



独立行政法人 労働政策研究・研修機構
The Japan Institute for Labour Policy and Training

2016年5月11日(水)
第85回労働政策フォーラム

地域雇用の現状と課題

—若者の定着・UIターン促進のために—

労働政策研究・研修機構
研究員 高見 具広

問題の所在： 地方活性化とUターン促進・支援

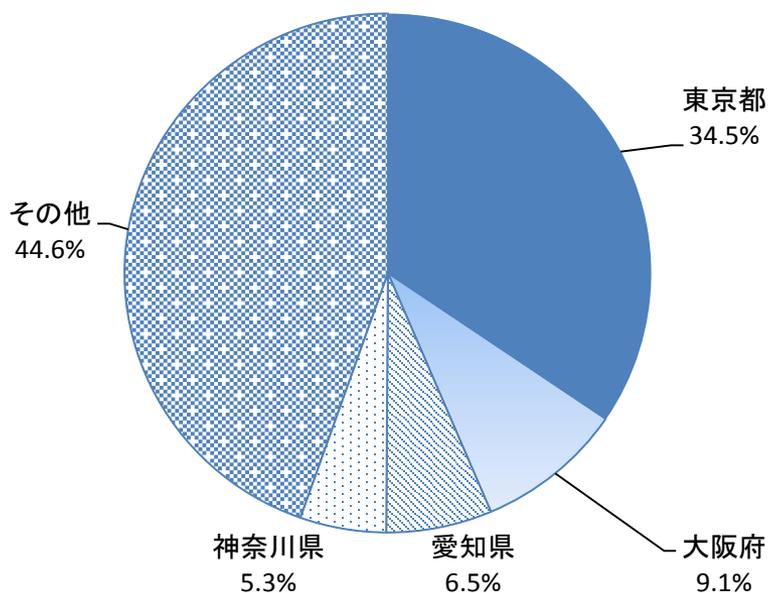
- 地域社会の存立危機…人口減少に歯止めがかからず、少子高齢化も急速に進行
⇒「地方の活性化」を政策的に後押しへ
- 若者の地域からの流出と大都市集中（特に東京圏への集中）
⇒若者の地域定着・人材還流（Uターン）を促進・支援へ
- 若者が地域に定着・還流するには、就業機会が大きな問題
…「地方には若者の雇用の受け皿が乏しく、大都市へ流出」といわれる
⇒若者のUターン促進・支援のために、雇用の視点も重要

調査研究の問題関心

- 地方において地域活性化の道筋はどのように描けるか？
- Uターン促進・支援のために具体的にすべきことは何か？

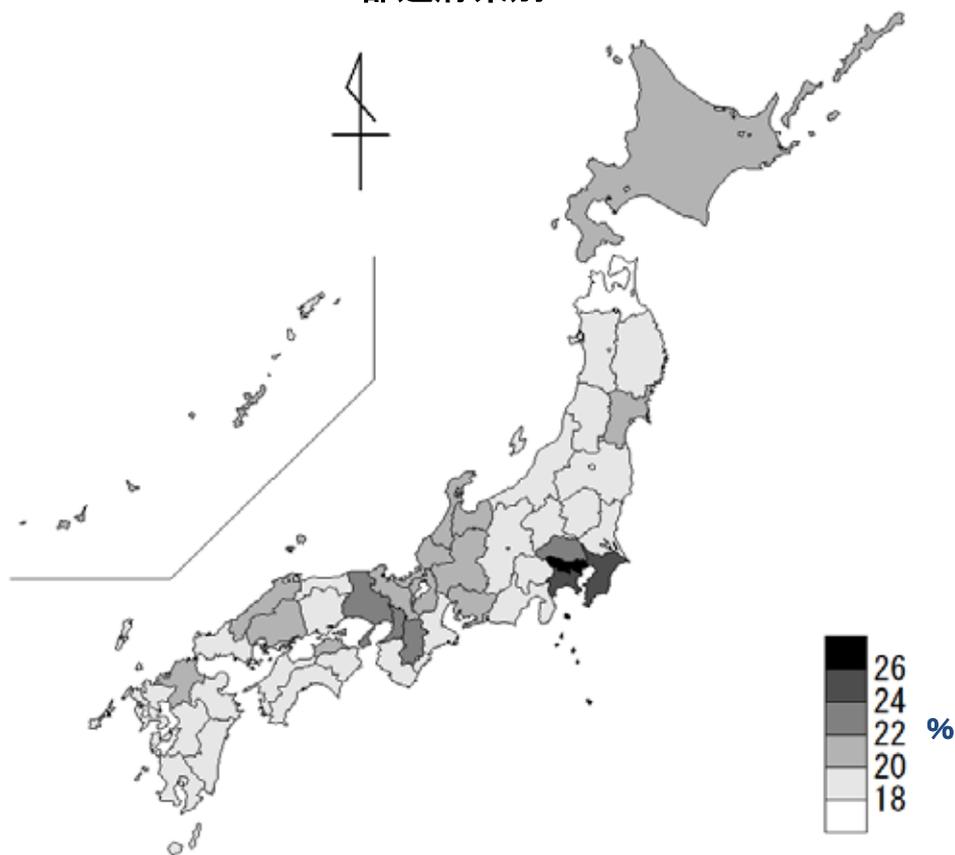
大都市と地方で雇用機会はどう異なるのか —大企業本社は東京集中、オフィスワークも偏在—

図 都道府県別大規模本社数
(本社従業員が300人以上)の割合



出典:総務省「平成21年経済センサス—基礎調査」
(内閣府「地域の経済2013」より)

図 就業者に占める管理職・事務職の割合
—都道府県別—



出典:総務省「2010年国勢調査」より作成

調査の実施

(ヒアリング調査、アンケート調査)

ヒアリング調査(2014年8月～2016年1月実施)

- 調査目的: 地方における雇用機会と若年者流出の実態、取組みの状況把握
- 調査対象: 地方圏の自治体(主に市町村レベル)の産業雇用担当・移住定住担当部局、ハローワーク・労働局、地域振興・移住促進の核となっているNPO等
- 調査項目: 地域の雇用情勢、出身者の地域移動、雇用創出・地域活性化の取組み、移住定住促進の取組みなど

アンケート調査(ウェブモニター調査、2016年1月実施)

- 調査目的: 若年期の地域移動(出身地からの転出とUターン)の実態把握
- 調査対象: ①現在25～39歳の地方出身者(出身県Uターン者、出身県外居住者等)、②現在25～44歳の東京圏・近畿圏出身で地方移住者(※①②とも就業者のみ)
- 調査項目: 地域移動経験(タイミング・移動先・理由等)、居住地域の特徴、仕事、生活、意識など

調査結果の詳細:

労働政策研究・研修機構(2015)「地域における雇用機会と就業行動」JILPT資料シリーズNo.151.

労働政策研究・研修機構(2016)「UITターンの促進・支援と地方の活性化ー若年期の地域移動に関する調査結果ー」JILPT調査シリーズNo.152(近刊).

【参考】アンケート調査における調査対象の区分

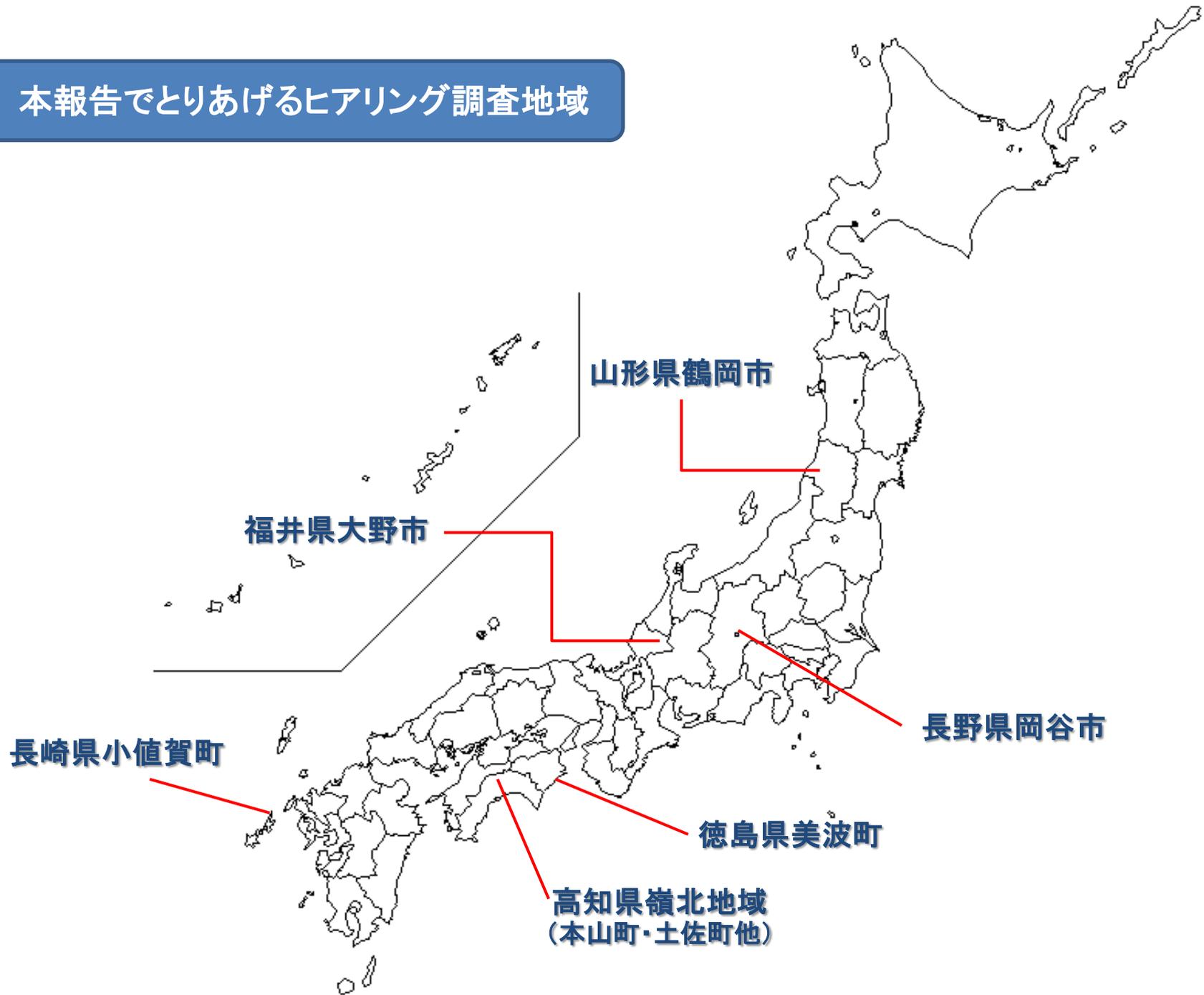
	出身県 (中学卒業時の居住県)	現在の居住県 (①②は、中卒時の居住県との異同)
①出身県Uターン者	地方圏	同じ
②出身県外居住者		異なる
③地方移住者(Uターン者)	首都圏・近畿圏	地方圏

<定義>

- ①「**出身県Uターン者**」...地方圏出身で、中学卒業以降に県外での居住経験をもつが、現在は中学卒業時と同じ県に居住する者
- ②「**出身県外居住者**」...地方圏出身で、現在の居住県が中学卒業時の居住県と異なる者
- ③「**地方移住者(Uターン者)**」...首都圏・近畿圏出身で、現在は地方圏に居住する者
(※地方圏は三大都市圏(東京圏・近畿圏・中京圏)以外の県を指す)

※県間移動の有無で定着・移動を定義すること、中学卒業時の居住地を基準(出身地)と定義することは、既存研究と同様

本報告でとりあげるヒアリング調査地域



地方都市の状況・課題

山形県鶴岡市



長野県岡谷市



地域の若者や親が地元企業を知らないために、就職活動の選択肢になりにくい
地域間の賃金格差などを背景に、若者の就職希望条件に合わず、戻りにくい

都市部から離れた地域(農村地域)

長崎県小値賀町



高知県嶺北地域
(土佐町・本山町他)



若者の雇用の受け皿は、役場・福祉・建設・農林漁業関係くらい
高卒後にほとんどの若者が地域を離れ、なかなか帰らない
地元の意識(地元には何も無い)も若者流出を加速

都市部からやや離れるが通勤が多い地域

福井県大野市

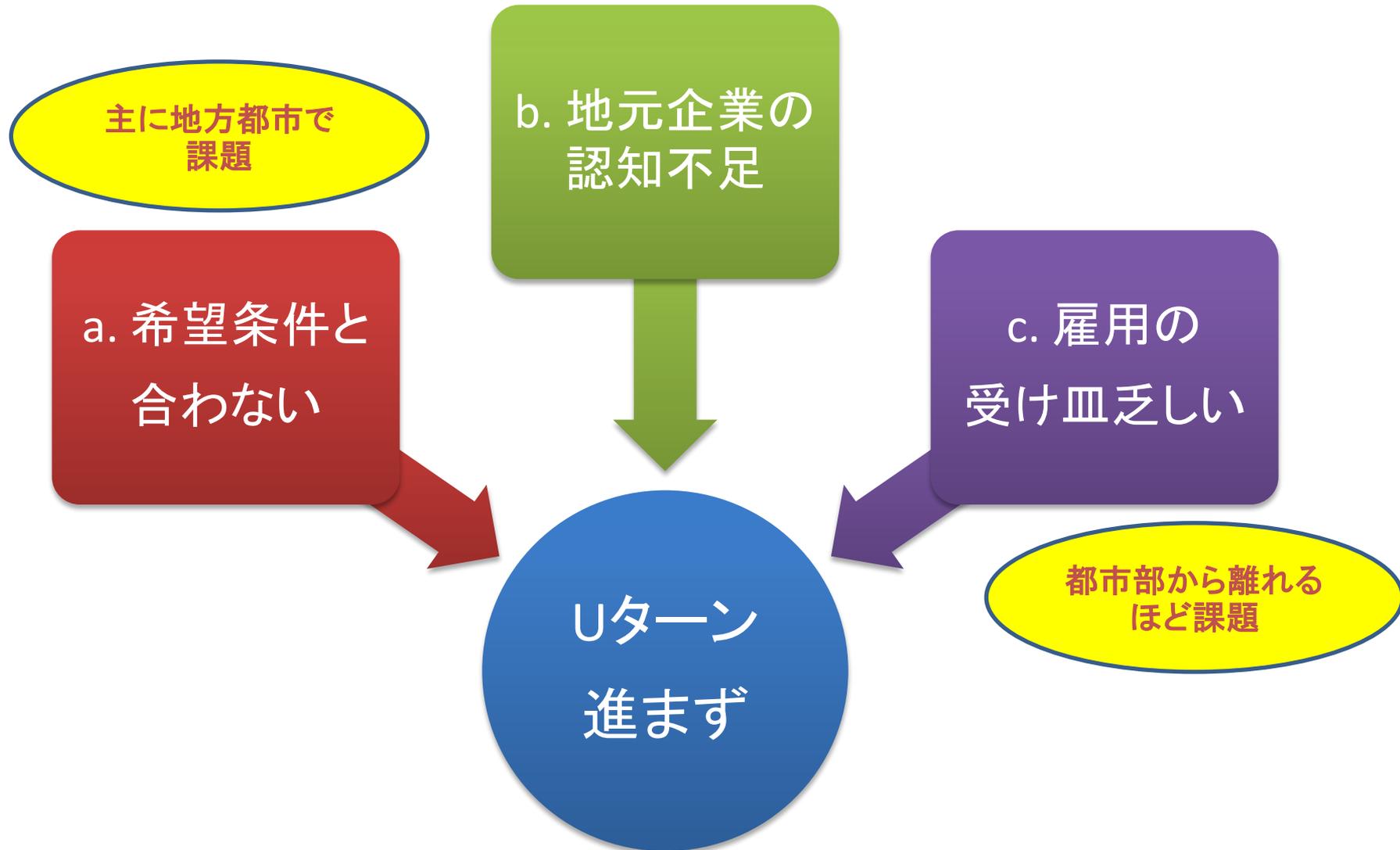


徳島県美波町



地元の雇用機会が不十分で、やや遠方の都市部へ通勤者が多い「郊外」(ベッドタウン)としてはやや不適で、都市部へ若者流出も(地域雇用の課題としては、都市部から離れた地域と共通する)

若者流出に関わる地域雇用の問題 (ヒアリング調査より)

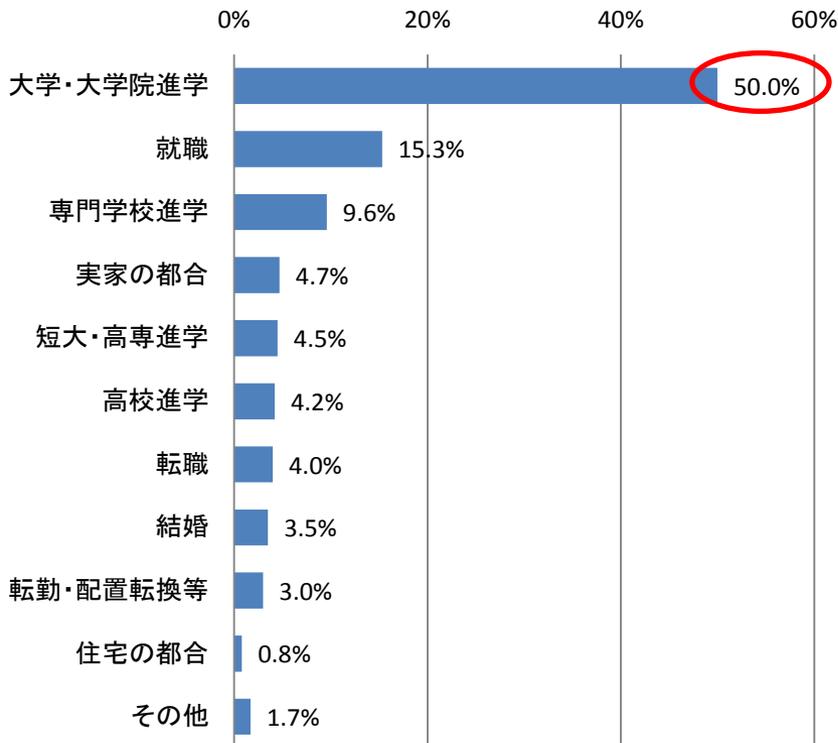


地方出身者が地元を離れるとき

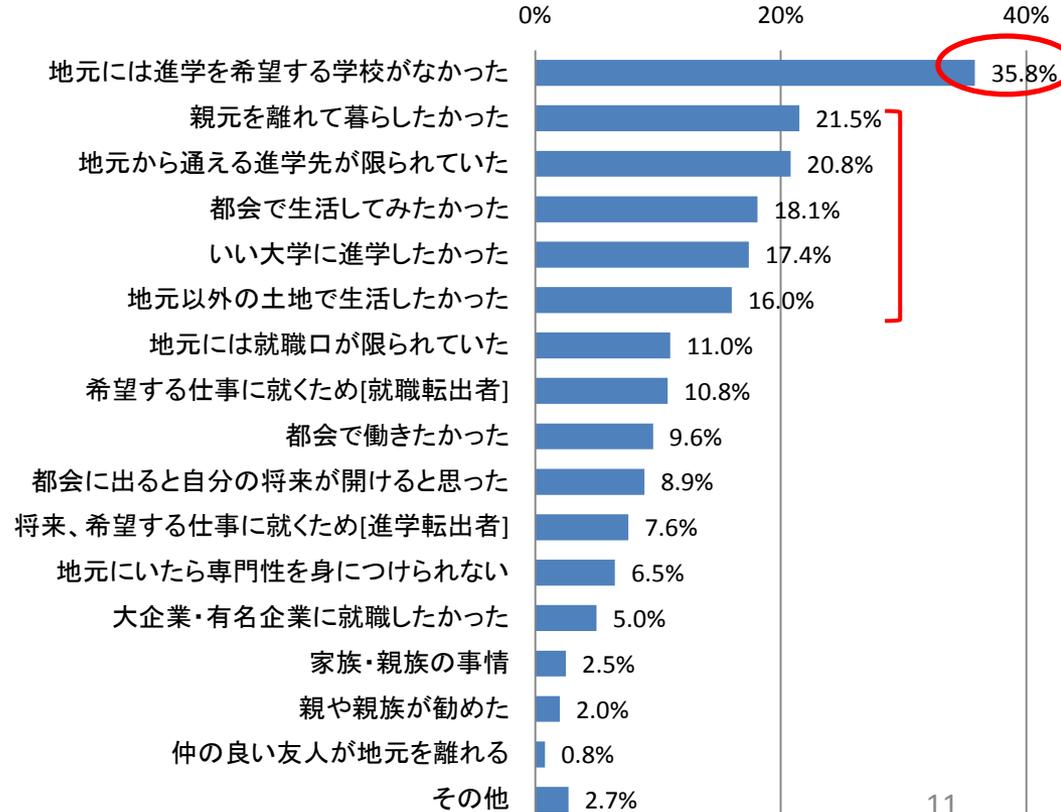
—進学移動が主で、仕事有無は直接の理由ではない—

- ✓ 転出の約半数は、大学・大学院進学がきっかけ。就職が約15%で次ぐ。
- ✓ 理由は、「地元で希望の学校なし」など進学先が限られる側面、「親元を離れたくない」「都会で生活したい」といったライフコース選択の側面が重なり合う。

出身市町村を離れたきっかけ(複数回答)
【地方出身の出身県外居住者】



出身市町村を離れた理由(複数回答)
【地方出身の出身県外居住者】



県外転出者はなぜUターンしないのか

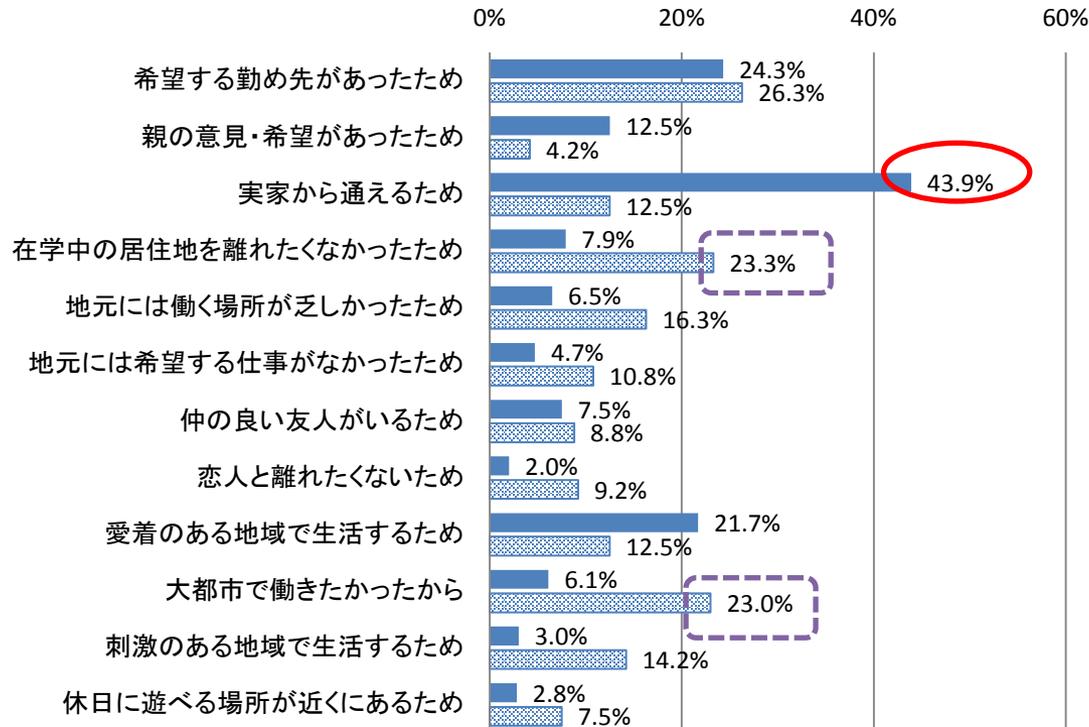
—大卒のUターン就職者と県外就職者の就業希望の違い—

- ✓ Uターン就職者は、親の影響もあり、実家から通える地域重視で就職先を選ぶ
- ✓ 県外就職者は、大学在学中の居住地、大都市での就業希望が強い
- ✓ 県外就職者の重視した条件＝「業種・仕事内容」「自分の能力を活かせること」(図は割愛)

図 就職地域の希望理由(複数回答)

—Uターン就職の有無別—

【大卒者】



■ Uターン就職者 (N=506) ■ 県外就職者 (N=600)

地方出身者がUターンするとき

—就職(22歳時)が多いが、離転職等で30歳頃まで続く—

- ✓ 就職によるUターンが最も多いが、離職・転職を機としたUターンも
- ✓ 22歳時中心だが、離転職などを機としたUターンは30歳頃まで続く
(理由をみると、親との同近居など家族事由がUターンの背景 図割愛)

図 出身県へのUターンのきっかけ(複数回答)
【出身県Uターン者】N=1467

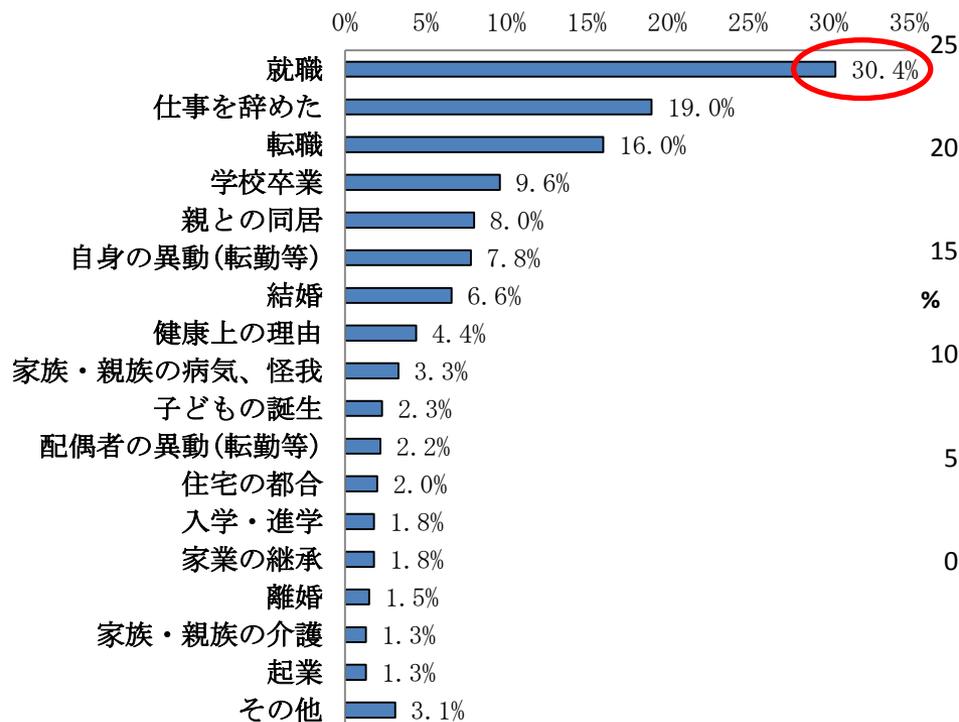
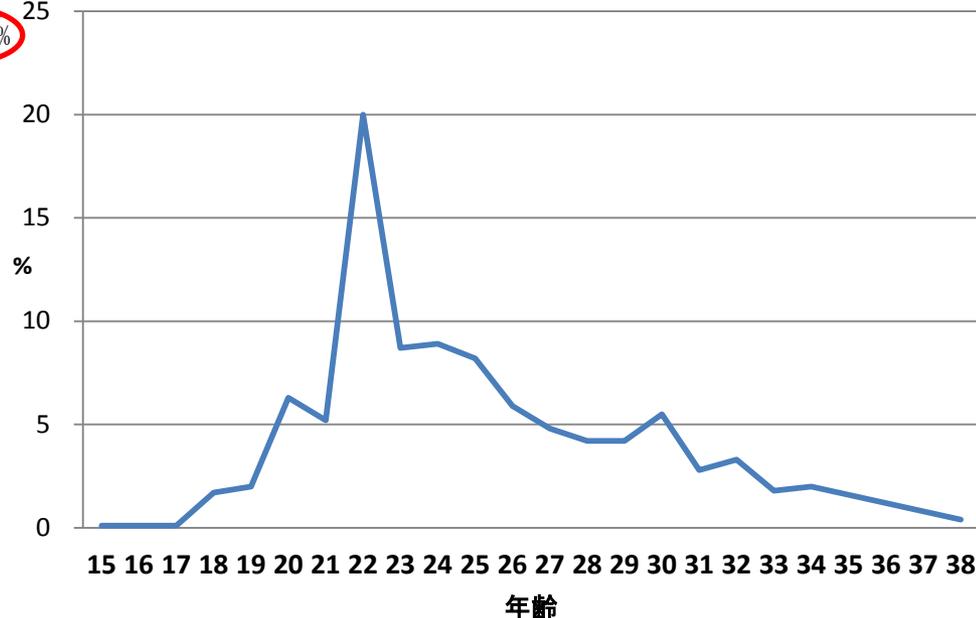


図 出身県へのUターン年齢(年齢別の割合)
【出身県Uターン者】N=1467



県内大都市部へのJターン

—都市部から離れた地域出身者の選択肢に—

✓ 大都市の出身者では出身市町村へのUターン率が高いが、都市部から離れた地域の出身者ではJターン多い。Jターン先は県内の大都市部

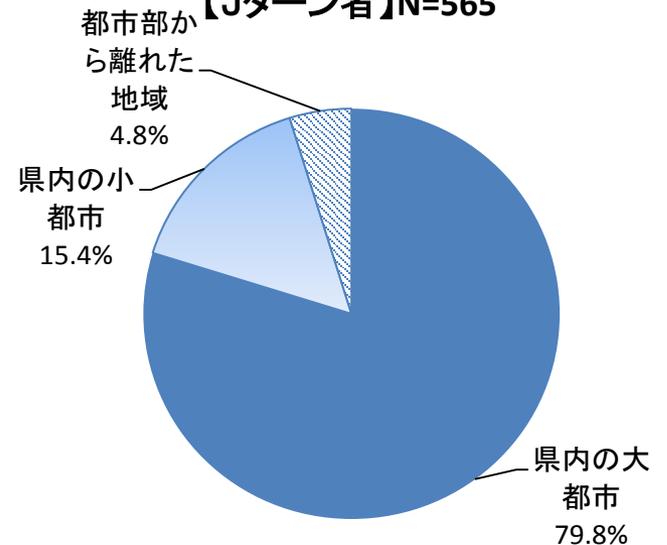
⇒出身地域の雇用の受け皿が乏しいと、地元へのUターン選択は厳しいが、県内の中心都市にJターンするという選択肢も

図 出身市町村へのUターン有無
—出身市町村の類型別—
【出身県Uターン者】



■ 出身市町村へのUターン ■ 出身市町村以外へのJターン

図 Jターン先の地域
【Jターン者】N=565



地元に戻りたい人はどのくらいいるか —潜在的Uターン希望と支援ニーズ—

- ✓ 出身市町村へのUターン希望(「戻りたい」「やや戻りたい」合計)は45.1%
- ✓ Uターン希望者においては、「仕事情報の提供」「転居費用の支援」「無料職業紹介」「公営住宅、定住住宅、家賃補助等」に行政支援ニーズがある

図. 出身市町村へのUターン希望
【地方出身の出身県外居住者】N=2027

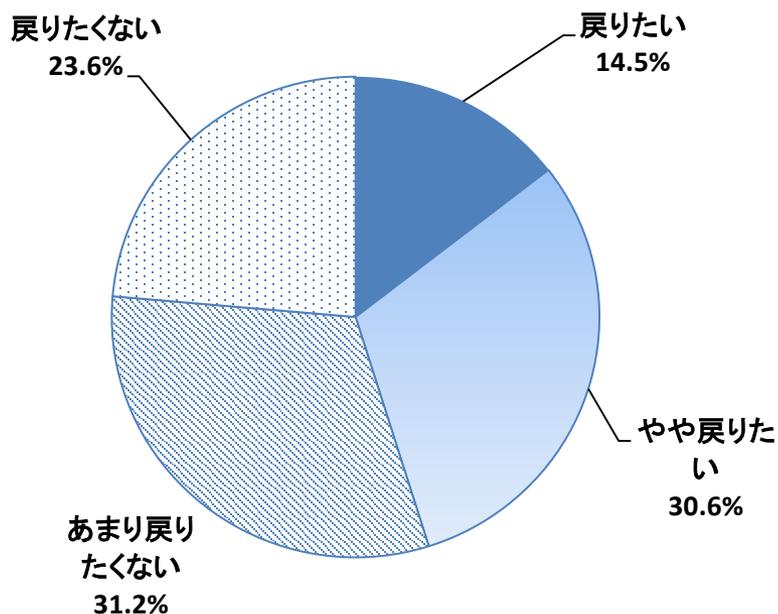
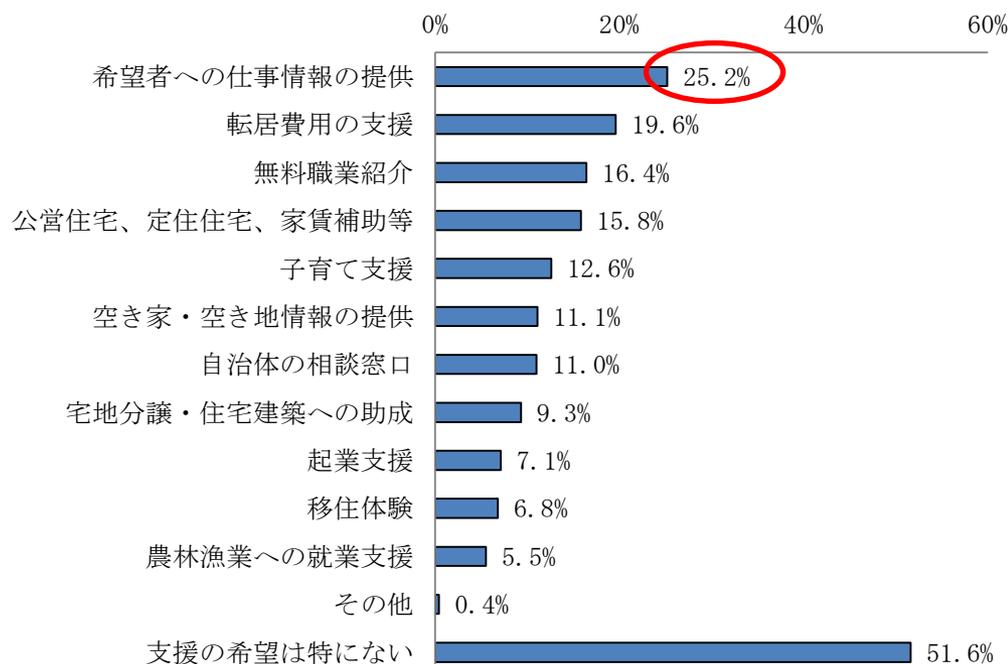


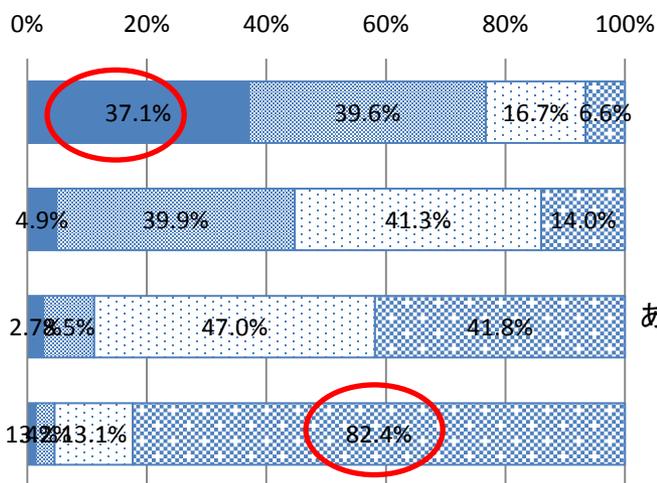
図 Uターンするために希望する行政支援(複数回答)
【出身県外居住者のうちUターン希望者】N=915



Uターン希望を裏づけるもの —地元への愛着、地元企業の認知—

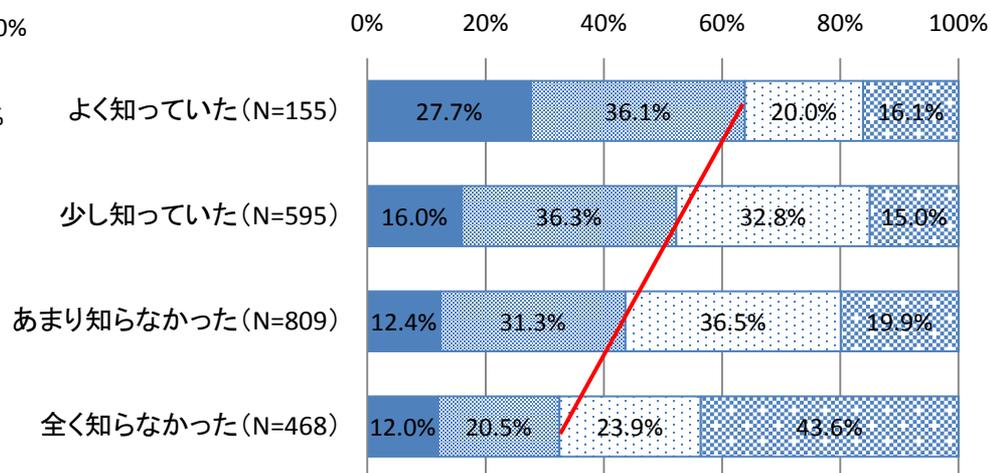
- ✓ 地元への強い愛着が、Uターン希望を支えている（逆に、愛着がないとUターン希望は生まれない）
- ✓ 出身地を離れるまでに地元企業を知るチャンスがあると、Uターンを希望しやすい

図 出身市町村へのUターン希望
—出身地への愛着有無別—
【出身県外居住者】



■ 戻りたい ■ やや戻りたい □ あまり戻りたくない □ 戻りたくない

図 出身市町村へのUターン希望
—高校時代までの地元企業の認知程度別—
【出身県外居住者】



■ 戻りたい ■ やや戻りたい □ あまり戻りたくない □ 戻りたくない

Uターンの受け皿を創る(雇用創出) —企業誘致、地元企業の振興など—

企業誘致

雇用創出の規模・スピードの面で優れる一方、利益流出の問題や撤退のリスクも



地場の中小製造業の振興



長野県岡谷市

起業支援も将来的な雇用創出につながる可能性(山形県鶴岡市などで取組み)¹⁷

地域資源を活かす雇用創出(農村地域)

—地元企業乏しく、地理的不利で企業誘致も困難—



長崎県小値賀町

落花生の加工品開発と島外への販売
島内に加工場建設の計画も



徳島県美波町

IT企業などのサテライトオフィス誘致
本社移転企業も

Uターンを促す①

—地域ブランド化と地元愛の醸成—
(事例: 福井県大野市)



地域の「水」資源で世界へ貢献・発信
⇒地元の良さ再確認・誇り醸成
(「水への恩返し—Carrying Water Project」)

高校生の地元企業・店舗ポスター展
⇒地元企業を知る、郷土愛を高める
(「大野へかえろう」プロジェクト)

Uターンを促す②

—地元企業の情報発信、意識付け—
(事例:長野県岡谷市)

• 地元企業の情報発信

(地元企業が知られていない問題への対応)

・・・Uターン者採用希望企業に、市・商工会議所
担当者が同行しての大学訪問事業(工業系大学中心)
→**地元中小企業に信用付与、地域の熱意も伝える**

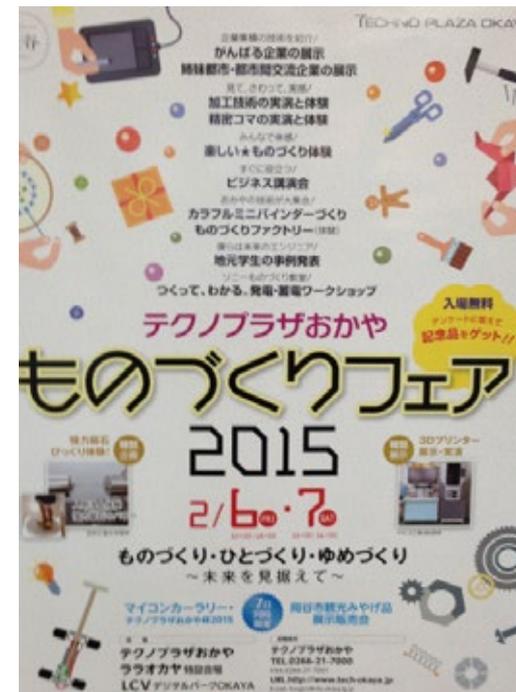
• 早くからの意識付け

(「大学文系に進学したら帰ってくる先(就職先)が乏しい」
という問題意識)

→**地元の子に早くから地元企業、「ものづくり」に興味を持たせる**

・中学校への企業の出張講義

・「ものづくりフェア」(毎年)・・・地元企業約150社の協力。企業の製品展示
のほか、授業の一環での小学生の見学もあり、焼入れやハンダ付けなどを体
験。高校生や大学生の研究発表の場も



Uターン時の支援 —女性ほど仕事面の問題大きい—

- ✓ Uターン時には、女性で特に「求人少なさ」「希望にかなう仕事」が気になり
- ✓ 地方移住(1ターン)でも、女性は「仕事が見つからない」問題を抱えやすい
(※女性ほど就業時間帯の希望強く、地方にある求人とのミスマッチ大きいことが関係の可能性)

図 Uターン時の仕事面の気がかり(複数回答)
—男女別—
【地方出身のUターン者】

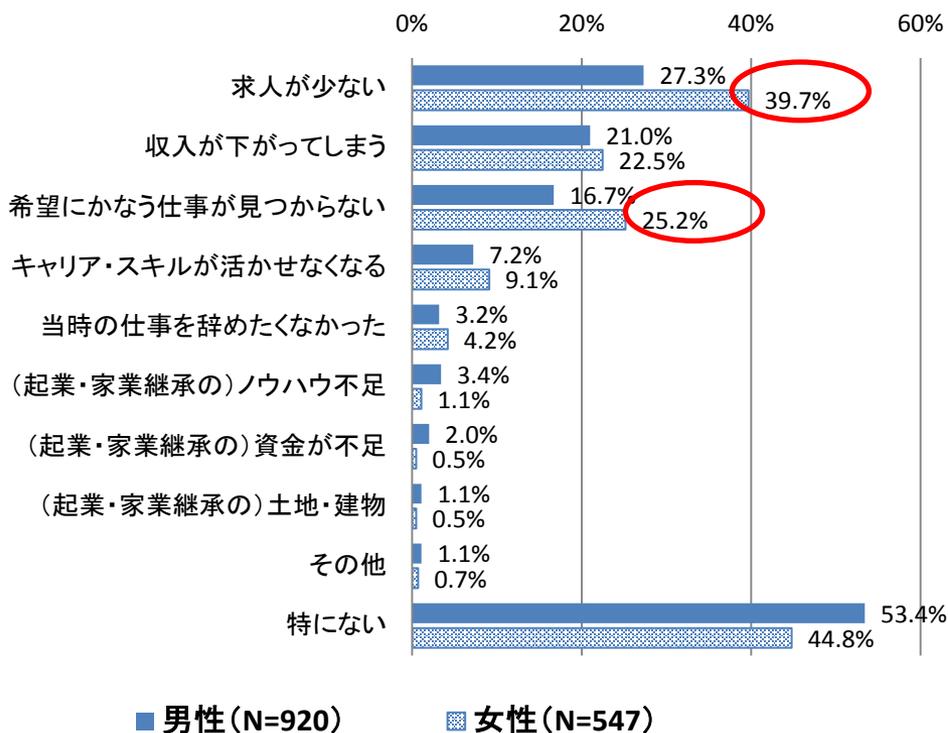
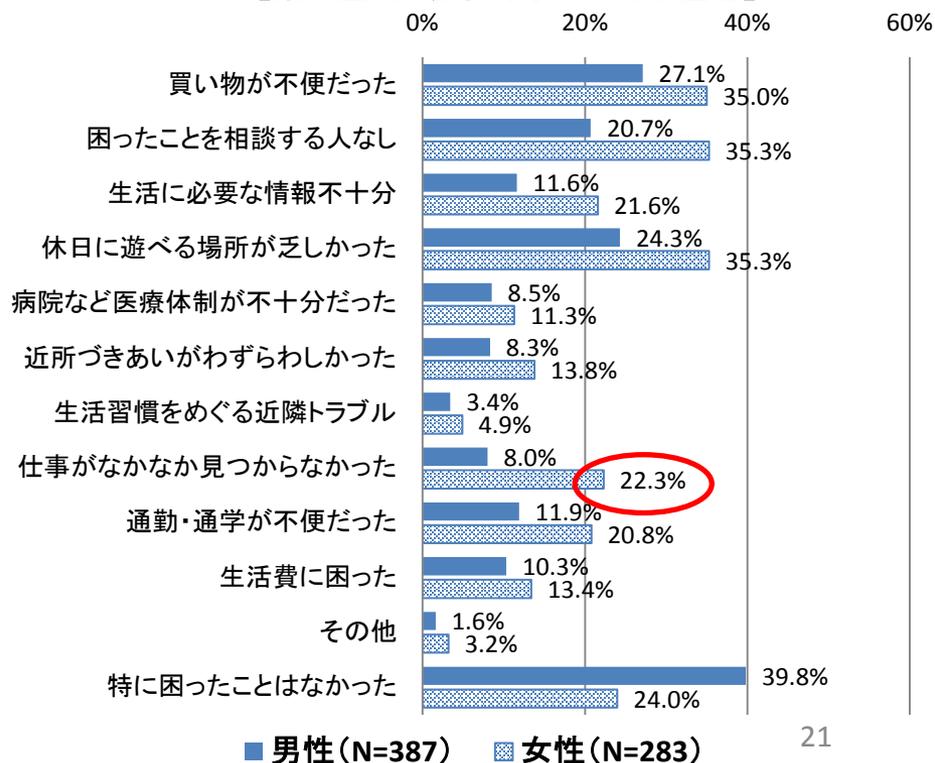


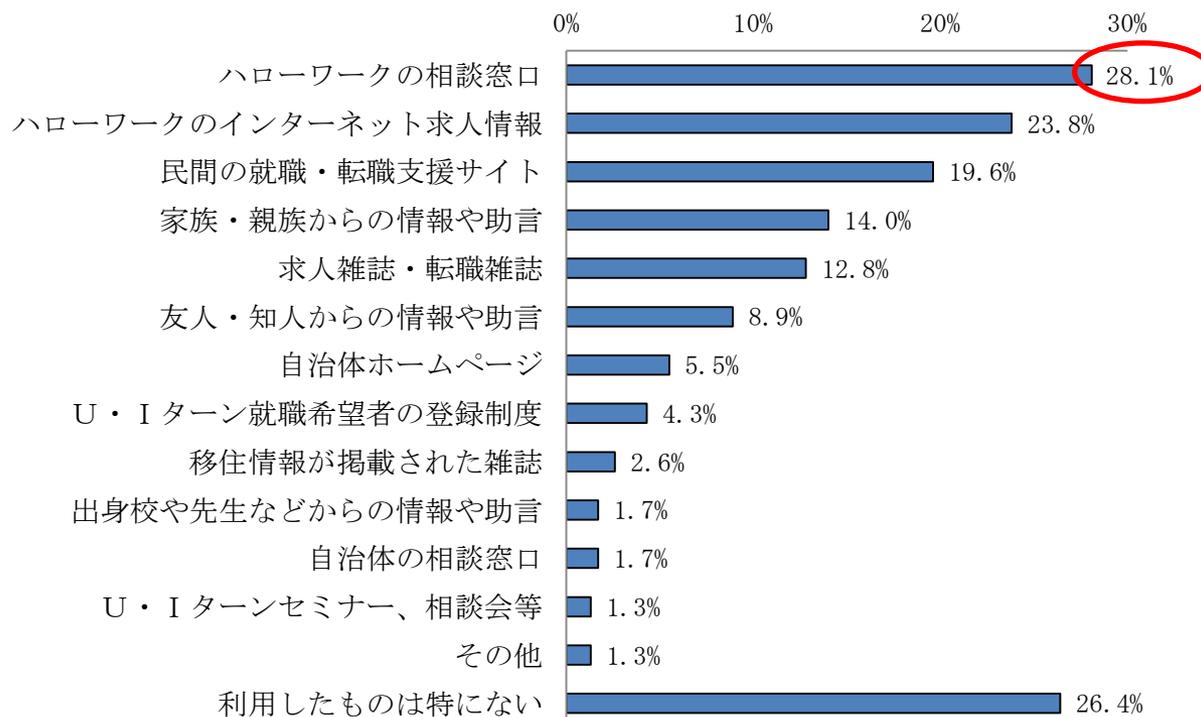
図 地方移住当初の苦労(複数回答)
—男女別—
【東京圏・近畿県出身の地方移住者】



就業支援では、公的機関の役割大きい — 希望に即した就業支援でUJターンのハードルを下げる —

- ✓ UJターン時には、ハローワークの相談窓口、インターネット求人情報の活用多い(※図は転職を機としたUターン者)
- ✓ 実際、各地のハローワークでは、求人と就業希望(就業時間帯など)との地道なすり合わせでミスマッチ解消に貢献(ヒアリング調査より)

図 転居・転職・起業の際に利用したもの(複数回答)
【転職を機としたUターン者】N=235



Uターン者は地域活性化の起爆剤に —好循環への道筋—

高知県嶺北地域
(土佐町・本山町他)

Uターン者が中心となり移住促進・支援
(丁寧な相談体制と移住後のフォロー)
⇒高知県内でも選ばれる移住先に

長崎県小値賀町



出典:「NPO法人れいほく田舎暮らしネットワーク」ホームページ

地域資源を活かした体験型観光の取組みで交流人口増、雇用の受け皿創出
(Uターン者が地域の隠れた魅力を発見したことが出発点)
⇒Uターン流入、メディアの注目浴びる中、地元の意識変わり、Uターンも刺激

UIターンの促進・支援は、地域の好循環を支える

